

北イタリア安全対策情報 2018年7月～9月

1 治安情勢

警察による治安対策が一定の成果を挙げており、ミラノ市内では一部地域（バンデネーレ駅周辺地域）を除き侵入盗の発生が減少している。しかしながら、依然として観光地であるミラノ、ヴェネツィア両市を中心にスリ、置き引き等の軽犯罪のほか、邦人被害の侵入盗も発生している。

当地でのテロの発生はなく、治安当局は9月15日、ISIL以外の海外テロ組織に属していた外国人戦闘員に対して初となる捜査を行うなどテロ対策を推進している。

2 日本人被害例（件数は当館に届け出のあったもののみを計上）

地下鉄車両内及び駅構内でのスリ被害が多く、特に女性の犯人グループによるもので、仲間の一部が被害者の注意をそらし、その隙に犯行に及ぶものが多い。また、自宅の玄関錠が破壊され、貴金属から日用品に至るまで盗まれた侵入盗も発生している。

(1) スリ 29件 (4月～6月：36件)

ア ミラノ中央駅構内のエレベーター内で、5人くらいの女性グループが他の乗客者に対して重量オーバーだから降りるよう言っていることに気をとられ、身体に下げていたショルダーバッグ内から現金等がすられた。

イ ヴェネツィアにて満員状態の水バス内にて旅券等がすられた。

ウ ヴェネツィアのリアルト橋にて、写真撮影中に旅券がすられた。

エ ミラノ市内を観光中、背負っていたリュックサック内から旅券がすられた。

オ ベローナのジュリエッタ銅像前にて写真撮影を依頼され、それに応じた際にバッグ内から旅券等がすられた。

(2) 置き引き 7件 (同：16件)

ア ヴェネツィア行きの車両内にて、荷物置き場に荷物を置いていたところ盗まれた。

イ ミラノ市内のブティックショップで試着中、バッグから目を離したところ盗まれた。

ウ トリエステの海辺で海水浴中、浜辺にリュックを置いていたところ盗まれた。

(3) 車上狙い 1件 (同：1件)

ミラノ市内のホテルで車から荷物を降ろしていた際に、運転席上に置いたバック等が盗まれた。

(4) その他（当館に寄せられた被害等）

ア 週末の半日間、自宅を不在にしたところ、玄関錠が破壊されたうえ、自宅内から現金、パソコン等の貴金属をはじめ、食料品や洗剤等の日用品に至るまで盗まれた。

イ レンタカー借用時、ボディーに既存の傷を発見したことから、事後の紛糾に備えて従業員に写真を撮らせてたが、返却時にレンタカー会社から本傷を指摘されるとともに、本写真は存在しないと抗弁され、弁償費1,000€を請

求された。

3 殺人・強盗等凶悪犯罪例

日本人の被害は認められなかった。

日本人以外の被害が発生しているところ、事件の一例は以下のとおり。

(1) 殺人

ア 7月3日

深夜、ミラノ郊外の会社内で、43歳の息子が64歳の父親とそのパートナーの女性53歳を射殺した後、自殺した。警察によると原因は、犯人が長期間にわたり個人的な悩みを抱えていたとされている。

イ 9月17日

深夜、ボローニャ県ヴァルサモッジャにて、16歳の少年が父親の拳銃を利用して同級生を殺害した。警察によると原因は、2人の間で薬物が関与しているのではないかとみている

(2) 強盗

8月3日

ミラノ市内の地下鉄ロレート駅構内にて、ルーマニア生まれの19歳の少年が33歳のイタリア人女性の顔面を殴打し、同女のイヤリングとバッグを強奪した。なお、犯人は後日、警察に逮捕された。

(3) 性犯罪（強姦未遂）

7月21日

午前5時頃、ミラノ市内の地下鉄ガリバリディ駅構内にて、ナイジェリア国籍の男性が電車を待つ若い女性を強姦しようとしたが、同女に催涙スプレーを噴霧されたことから逃走し、未遂に終わった。なお、犯人は後日警察に逮捕された。

(4) その他

9月11日

午前11時頃、ミラノ市内のガスパッリ広場内にて、2人の男性が合計12発の拳銃を撃ち合った後、逃走した。現場付近の車やスクーターは被弾したが、けが人はいなかった。

4 テロ・爆弾事件発生状況

特になし

5 誘拐・脅迫事件発生状況

特になし

6 対日感情の変化

特になし

7 日本企業の安全に関する諸問題

特になし